



# うたきの杜たより

創刊号 2026.2.17(旧正月)



## ～御嶽のふもとから～

今日2月17日は旧暦1月1日。「正月の朝、東から上がってくる太陽に向かって、若鶯が羽ばたいていく」という、八重山民謡の鶯の鳥節に祈りを込めて、御嶽と畠に手を合わせ静かに舞ました。

はじめまして。うたきの杜の玉城です。

私たちは、御嶽に抱かれる小さな畠で、ヘナとインディゴを自然栽培しています。

種をまき、草を刈り、収穫、乾燥、粉末にするまで。すべてを三人の女性の手で丁寧に行っています。

大地を傷めないこと。七世代先へ手渡せる畠にすること。それが私たちの願いです。

近年、気候は大きく変わってきました。猛暑の日々、雨が降らず、降れば豪雨。昨年は3月末まで冬の気温であったため、ヘナの刈り取りが2か月遅れました。自然の前では、見守ることも大切な仕事です。それでもヘナ、インディゴはしっかりと力を蓄え、いい色を出してくれました。

「きめが細かく塗りやすい」「香りがいい」「よく染まる」そんなお声に励まされています。見えない工程のひとつひとつが、使い心地につながっています。染めるということが、心身魂を整える時間となりますように。

このおたよりでは、畠のこと、自然のこと、手仕事の裏側を少しづつお伝えしていきます。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

うたきの杜 玉城享子



いつも商品を使って下さりありがとうございます。  
喜んで頂けるものを喜びをもって作っていきますね！

えりな

インディゴ



本日の畠の風景



ヘナ

毎日みんなで楽しく、  
作業してます！  
これからも良いものを  
素敵な方達と共に届けて  
いきたいと思います。

わか